

研究者のための全国共同利用の大型計算機が初めて設置されてから、わずか15年で、本学計算機センターでは、現在これをはるかに上まわる大きな計算機が稼動している。しかもその業務にたずさわるセンター職員は常勤、非常勤合わせて4名にすぎず、初期の共同利用大型計算機センターの数十人とは比べものにならない。それでも動かせるということは、操作の自動化が進んだこともあるが、それ以上にセンター職員の努力によるものが大きい。

それでもこの少人数ではどうにもならないことがあった。それは計算機の利用方法についてのきめ細かい教育、宣伝であった。

我々一般ユーザの有志は当センターのこのような状況を憂慮して、教育についての応援を買って出た。その結果いくつかの手引きが発行され、講習会も行われた。

有志の集まりは、やがて教育小委員会として、計算機センター運営委員会の承認を受け、手引きの作成が組織的に行われるようになった。しかし、そのために我々の活動は大変な重労働になった。

原稿を書くという煩わしさ、知らないことをそれこそ原稿のために調べるという手間もさることながら、さらに他人の原稿を精読して間違いや不親切な表現を見つけ、全員による討議を重ねるということが毎週行われ、これが既に1年も続いている。しかし、このようなサービス行為は、結局自分自身が計算機をよりよく知り、より利用しやすくし、それが本来の研究能率の向上に結びつくものでありと我々は考えてきた。

現在TSSの利用者が急激に増加していることは、おそらくこれらの手引きを通じての我々の努力が実ったものと自負している。

このような折、広報小委員会から、これまでの成果をまとめてみてはどうかという勧めがあった。そこで既に発行されたいくつかの手引きの中、TSSに関する基本的なもの6編を集めてみた。

個々の手引きは若干の修正をした上で複写したが、さらに使い易くするために、手引き間の関連ならびに索引をつけた。

計算機の発展はすさまじい。一旦作った手引きはたちまち書き直しに迫られる。新しいソフトの導入によりまた新しい手引きが必要になってくる。発展が続く限り、教育活動も止めることができない。この種の仕事はきりが無いようだ。

ユーザ各位には本特集を今までの手引き以上に役立てていただき、さらに、今後ソフトの提供ならびに手引きの作成に積極的な御協力をお願いする次第である。

昭和 57年 7月